

かゑらじと かねて思へハ 梓弓  
なき数に入る 名をぞとどむる  
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第36号

平成28年11月8日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

10月11日、現地学習に16人参加

## 四條畷の合戦、その戦跡を訪ねて歩く第二弾

### 本陣を構えた河内往生院から枚岡神社まで

#### JR 四條畷駅から近鉄バスで瓢箪山に

今月の例会は、現地学習「四條畷の合戦、その戦跡を訪ねて歩く第二弾」を実施しました。JR学研都市線「四條畷」駅、午前9時20分集合でしたが、今回はハプニングが起きました。明石から参加の藤原さんは、JRの遅延で、バス発車に間に合うかどうか大変心配しましたが、何とか間に合い安堵。しかし、八幡から参加の山下さんと久野さんは、バス発車に間に合わないという事で、急きょ予定を変更して近鉄・瓢箪山駅で合流することに。また、西尾部長は、急に公務が入り、午前中は参加できないこととなり、急きょ午後からの合流となりました。

最も遠い、東京から参加の広木さんは、午前6時00分発の新幹線で来阪され、集合時間前に到着、奥田社長も交え、近鉄バスに乗車しての出発となりました。

#### 往生院の川口住職からお話を伺う

一同は、瓢箪山駅から往生院に向かいますが、この行程はのぼりばかりで、四條畷の合戦で正行が本陣を構えた河内往生院に辿りつくまでに一苦勞といったところでした。



↑川口住職の話に聞き入る

今回の現地学習は、正平3年1月5日、四條畷の合戦

の折、正行が本陣を構えた河内往生院から枚岡神社までの戦跡を訪ねて歩きます。

往生院に到着した我々一行を、ご住職の川口哲秀氏と副住職の川口泰弘氏が出迎えてくださり、瓦葺の金堂が建てられた鎌倉時代前期の萱と軒周りの一部の実物大での復元物を前に、陳列されている出土した丸瓦、平瓦を前に、往時の金堂の壮大さを実感していただきたい、と説明をいただいた。

そして、河内往生院は四天王寺のほぼ真東にあたっており、往生院から見る彼岸の太陽は四天王寺に向かって落ちていき、この地が極楽浄土の東門にあたる事から極楽往生を達するためにふさわしい場所ですと、往生院から写した四天王寺に夕陽の落ちる写真を示されながら、説明いただきました。

次に、往生院の西約300メートルの地にある岩滝山遺跡から出土した舟形の石組を移築した場所に移り、この石組のあった園地の底から鎌倉時代の「菊花双鳥文」の銅鏡が出土したと、そのレプリカをお示しいただき説明いただきました。

川口住職は、この岩滝山遺跡辺りに寺の関係者の住まいがあったものと思われるとし、そのことは、出土した銅鏡が当時寺院や有力武士、豪族しか持てない貴重品であったことから推察されるとお話されました。

その後、民具館を見学させていただき、昼食休憩を取りました。

#### 楠木正行墓に墓参

昼食後、全員で、楠木正行墓に墓参しました。楠木正行公は、四條畷の合戦に際し本陣を往生院に置き、出陣していきますが、大日本史によればその遺骸を往生院に葬るとあり、左の五輪塔が正行公、右の石碑は正成公の供養

写真・上：  
正行墓  
下：正行墓  
に上る石  
段・初代中  
村願治郎  
が修復



塔（江戸期  
に建立され  
たもの）が  
建っています。



そして、この正行公の墓の前にある石段は、大正4年、初代の中村願治郎が修復されたものであること、そして、近鉄瓢箪山駅にも石の道標を寄贈されたことが紹介されました。この石の道標は、現在、瓢箪山駅奈良方面行のホームの一角に堂々と立っているとのこと。

### 阿倍野ハルカスをバックに記念撮影

正行墓の墓参の後、往生院の門前で、はるかかなたに大きく見える阿倍野ハルカスと小さくかすかに見える通天閣に挟まれた地にある四天王寺（実際は見えない）を背景に、全員で記念撮影をしました。



↑往生院門前で（バックに阿倍野ハルカス、通天閣）

### 正行が本陣を構えた本陣跡に案内され、感激

そして、川口住職の計らいで往生院の北東約200メートルの地にある往生院金堂跡に向かいました。

現在はけもの道になってしまっており、金堂跡の現地まではいけませんでしたが、金堂跡と東高野街道をつなぐ里道に立ち、川口住職の説明をお聞きしましたが、まさに、正行公が出陣をしていったであろうその道筋に立ち、一同全員がその感動と感激をかみしめた瞬間でした。

金堂跡は、昭和36年、大阪府の史跡に指定され、ここから出土した古瓦の中で最も古い物と思われる物は、平安時代後期から鎌倉時代初期と考えられる軒丸瓦で、中央には梵字「キリク」（阿弥陀如来の種字）が掘り出され

ているとのこと。

金堂跡で川口住職、副住職と別れ、枚岡に向けて歩きました。

金堂跡から東高野街道に向けてはかなりの急こう配で、正行は騎乗していたものと思われますが、相当馬術が達者でなければこの坂を馬に乗って降りるのは難しいのではないかと思います。

### 水走氏館跡に立ち寄る

途中、水走氏の館跡に立ち寄りしました。

今は、開発が進み、周辺はすべて新興住宅が立ち並び一角に、人知れずひっそりと館跡の碑が立っていました。



↑水走氏館跡の碑

水走氏は、枚岡神社の祀官を務め、河内一帯にかけて広大な土地の領有支配権を持った中世の豪族で、水走氏の館は寝殿・廊・惣門・倉等を有するかなり広い屋敷だったことが水走文書に記されています。

水走氏は、正成に同心して活躍し、正成死後も正行に味方したため、高師直らの攻撃を受けて降伏する憂き目にあっています。しかし、河内守護となった畠山氏の下で既得権益を縮小しながらも維持し、室町時代を生き抜いたようです。

### 枚岡神社に残る正行公首洗いの井戸を見学

枚岡神社境内に入った一同は、同神社の権禰宜、枝茂川彰彦さんのご説明で、枚岡神社の由来等をお聞きし、

正行公が、四條畷の合戦の折、武運を祈願して馬や武具を奉納されたことも



教えていただきました。↑正行公首洗いの井戸（枚岡神社境内）の前で

そして、正行公首洗いの井戸（今は、「正行公縁の井戸」といわれる）の前に移り、正行公が、四條畷の合戦の前に、“身を清めた”と伝わる首洗いの井戸を見学しました。

その後、近鉄枚岡駅で流れ解散とし、会員と広木さんはバスで四條畷駅に戻り、駅前の喫茶店で反省会を開きました。

この日も、正行公に思いをはせながら、四條畷の合戦の戦跡を訪ねることができ、満足感に満たされた一日となりました。

（文責「四條畷楠正行の会」代表 扇谷昭）